

「知る権利」…新型コロナウイルスについて市の情報発信に思う

「多摩市では、感染者の方はどのようにお過ごしになっておられるのでしょうか。入院や退院の状況、或いは、軽症者対応のホテルでの宿泊療養等、感染した場合の心構えになる情報は私たち市民に知らせていただけないのでしょうか。」

市民のみなさんから私のところに届く素朴な疑問です。

実は、私たち市議会議員も感染者の状況は都や市の公式ホームページをはじめ新聞報道などで確認している状況にあり、市民の方からの問い合わせに回答しきれないのが実情です。(申し訳ない気持ちになります。)

現に、市議会では「市民の方の不安を少しでも解消するために、個人情報には細心の注意を払いつつ、適切な情報発信をしていくことが重要」との指摘があるものの、市は南多摩保健所(東京都)の指示を仰ぎつつ、対応しなければならず、独自の判断で「市民目線」の情報発信を行うことのハードルは高そうです。

7月31日に市議会臨時会を開催し、東京都に対し、感染者情報の公表について改善を求める等、意見書の提出を決めました。

HISAKA'S Profile

1977年 兵庫県神戸市生まれ/1989年 北諏訪小学校卒/1992年 桐朋女子中学校卒
1995年 桐朋女子高等学校(普通科)卒/1999年 中央大学法学部政治学科卒
1999年~2002年 中小企業金融公庫(今の日本政策金融公庫)勤務/2002年4月 多摩市議会議員補欠選挙当選/2006年 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了(公共政策学修士)
/2017年~2019年 多摩市議会第31代議長
2020年現在 議員歴6期19年目 諏訪2丁目在住

市議会レポートほうれんそう

岩永ひさかへのご相談は・・・

ご用件と希望する連絡先を留守番電話へ！必ず折り返します。

TEL 042-371-0763 留守番電話専用

この青空をずっと守っていききたいなあ



しかし、市民のみなさんの不安を必要以上におおることなく、冷静に判断し、落ち着いて行動するために、その判断材料となる情報は必要不可欠。「知らせてもらえない」「知ることができない」ことからのますます不安・心配が募ってしまうことがあるのではないのでしょうか。

それにしても、新型コロナウイルス対策への取組みのみならず、私たちの「知る権利」はいかに保障されているのか。

「情報を出す、出さない」…がこれほどまでにコントロールされていることへの疑問を、日々、実感し痛感させられています。正しい情報を包み隠さず伝達し、市民と共に考えていくことこそ、私たち市政に携わるものにとって最重要であることを訴え続けていきたいと思えます。

2020年 summer 第156号

多摩市議会議員

岩永ひさかのほうれんそう

所属党派 フェアな市政 発行者 岩永ひさか
連絡先 多摩市諏訪2-2 B410
TEL/FAX 042-371-0763

ブログ更新中!!
ご意見も随時
募集しております!

<http://www.iwanaga-hisaka.net/>



みなさまの「暮らし」は変わりましたか。「新しい生活」「新しい様式」にみなさまはどんなことを感じ、考えておられるのでしょうか?

第2波なのかどうか…再び、新型コロナウイルスの感染拡大が言われる中、また、先の見えない不安と向き合いながら、毎日をお過ごしになっている方も少なくないのではないかと思います。

そんな中で、公園で無邪気に遊んでいる子どもたちの姿を見るたびに、元気な笑い声を聞くたびに、私は「この子どもたちのために、行動できているのだろうか」と自問自答してしまいます。政治は本当に今、役割を、その責任を果たせているといえるのでしょうか。

「誰一人取り残さない」「もっとフェアに」を自分自身のスローガンに掲げながら、市政運営に関わってきましたが、言葉どおりにはいっていない難しさを感じつつ、しかし、やっぱり、「正直な政治を進めていきたい」という気持ちがますます募っています。

私たち大人は子どもたちにどんな未来を託すのでしょうか。託すだけでなく、子どもたちのためにどんな社会を手渡していくのでしょうか。

「経済よりもいのち」真正面から取り組んでいくためにも、市政の現場にあってもまた、今こそ、「厳しい決断と覚悟」が必要だと感じています。

これから始まる本格的な夏もあわせ、日々、ご無理なくお過ごしいただけますよう願う気持ちでいっぱいです。

2020年8月吉日

岩永ひさか



問われる私たちの行動。気候非常事態宣言。

～私たちのくらしを地球のみらいにつなぐために。

■私たち議会で取り組んできたこと

6月議会で都内で初めての「気候非常事態宣言」が可決されました。

これは今年2月の施政方針で市長が取り組むことを明らかにしたのですが、3月議会では市議会でも「気候非常事態宣言」を行うにあたっての決議をおこないました。私は、決議とは「私たち議員一人ひとりもまた、この問題に積極的に取り組んでいく姿勢」を明らかにしたものと受け止めています。

今回の「気候非常事態宣言」は議会決議の内容も踏まえ、下記の3点をポイントとしています。

- ①「気候危機」が迫っている事実を市民全員と共有し、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロをめざす
- ②資源の有効活用を図り、使い捨てプラスチックの削減を推進する
- ③生物多様性の大切さを共有し、その基盤となる水とみどりの保全を積極的に推進する

■生活環境常任委員会で取り組んだ「プラスチック問題」のこと

私は昨年4月の改選後、生活環境常任委員会に所属し、「廃プラスチック問題」をテーマに調査活動を重ねてきました。私たちの暮らしには不可欠

であり、そしてまた、暮らしを便利にしてきたプラスチックですが、プラスチックごみによる海洋汚染問題が引き起こす生態系への影響が無視できなくなっているからです。また、多摩市のごみ総量は減少していても、増え続けているプラスチックごみとペットボトルごみ問題も課題でした。

今年の7月から「レジ袋の有料化」が本格的にスタートし、マイバックの活用がさらに推進されていくことが期待されますが、私たち委員会では当時、学校給食の「パック牛乳」を「びん牛乳」に変えることにより、廃プラスチックになる「ストロー」の使用を中止すること等も提案しました。

※その後、学校給食については、納入事業者の都合もあり、今年の4月から「びん牛乳」に変更となりました！

■身近なところでできる工夫から始まる「脱・プラスチック」

また、私たちは、例えば、マイバックの持参をうっかり忘れてしまった場合には、「多摩市の有料ごみ袋」をばら売りにすることにより、対応してはどうか。

多摩市よりも先に「気候非常事態宣言」を実施し、具体的な行動を推進している神奈川県鎌倉市をモデルに公民連携で公共施設にウォーターサー

バーを設置する取組みなどを検討してはどうか。

木綿や麻などの丈夫な素材(PETを使用しない)、なおかつ、おしゃれなマイバックを作成、普及をしてはどうか。

現代のくらしを考えると、一足飛びに「脱・プラスチック」に向かうことはなかなか難しいと思いますが、誰でも気軽に簡単にできることから取り組むことを提案しました。

委員会活動の結果が、3月の議会決議や、今回の「気候非常事態宣言」にもつなげることができたと考えていますが、イギリスでは、「気候非常事態宣言をした各自治体が、その実効性を上げるため、地域の特性を踏まえた「気候非常事態行動計画」を作成していると聞いています。今後、多摩市にも「気候非常事態行動計画」が必要になると考えます。

■宣言をただで終わらせないように！プラスチック・フリー生活



それにしても、地球の温暖化と環境の悪化は年々深刻化しています。今回、多摩市が「気候非常事態宣言」が行った大きな理由には、私たちの生活様式そのものが地球の温暖化をはじめ、地球環境の悪化を招いているという強い認識があるからに他なりません。

そして、今、私たちは、その環境変化を実感しているのではないのでしょうか。

真夏の猛烈な暑さ、数年前にはなかなか耳慣れなかった「線状降水帯」という言葉と毎年のように発生する豪雨。大雨の被害は日本社会にも大きな影響を及ぼし、私たちの暮らしの安全と安心に大きく影を落としています。だからこそ、**私たちが自ら「私の暮らし」を問うてみる必要があるのです。「気候非常事態宣言」はそうしたきっかけづくり、私たち市民のキックオフの宣言**であり、ここからスタートしましょう！と呼びかけるものでもあるのです。

■ぜひ、一緒に！「プラスチック・フリー」を。

マイバックはもちろんのこと、暑い夏にはマイボトル。年々増え続けているペットボトルごみをまずは減らしてみることに始めてみませんか？

一人ひとりのささやかな行動が、未来を守る力につながっていく。どうかよろしくお祈いします。

